

令和6年度 事業報告書

社会福祉法人 相模翔優会

特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

短期入所（予防）生活介護 ル・リアンふかみ

<目 次>

社会福祉法人相模翔優会法人理念	2
法人スローガン	2
ル・リアンふかみ 施設運営方針	3
求められる職員像	3
はじめに	4
1 理事会・評議員会開催状況	5
2 特別養護老人ホーム	6
（1）利用者の状況とサービスの提供	6
（2）介護主任総括	7
（3）各ユニット報告	8
（4）短期入所生活介護	11
（5）利用者の健康状況	12
（6）サービスの質の向上	14
ア 相談部門	14
イ 機能訓練	16
ウ 食事栄養担当	17
エ 介護支援専門員	18
オ 口腔ケア指導	18
3 委員会報告	18
（1）安全衛生委員会	18
（2）感染症・褥瘡予防委員会	19
（3）人権擁護委員会	20
（4）総務委員会	22
ア 防災	22
イ 物品	23
（5）行事企画担当	24
ア 研修	24
イ ボランティア活動	29
ウ 外部機関との関わり	29
4 職員関係	29
（1）職種別配置構成	29
（2）資格取得構成	30
（3）講師派遣・実習	31

【社会福祉法人相模翔優会 法人理念】

相模の地で、笑顔で翔き、優しさをもって、

出会える場所を提供致します。

【法人スローガン】

「 優・尊・地・守 」

1. 優しさをもって接します。
2. 人権を尊重した生活を提供します。
3. 社会貢献を目指し、地域に求められるよう努めます。
4. 法令を遵守した法人運営に努めます。

【ル・リアンふかみ 施設運営方針】

ル・リアンふかみの「絆」

- ・ 関わる全ての人との絆を深め、「想い」を大切にします。
- ・ 優しさを持ち、職員間の絆の輪を広げます。
- ・ 社会貢献により、地域との絆を築きます。
- ・ 関係機関との絆を構築します。

【求められる職員像】

「思いやり・向上心・権利擁護」

- ・ 思いやりのある職員
- ・ 向上心を持ち、チームとして働ける職員
- ・ 人権を守り、権利擁護を理解できる職員

は じ め に

冒頭に際し、令和6年度事業報告の結果に対し、事業全体の遂行が進まなかったことに対してお詫びいたします。事業計画に対する全般的な指導についても至らないこと責任を痛感いたしております。以下に内容を説明させていただきます。

令和6年度は、諸物価高騰の波が収まらず、水光熱費の高騰や最低賃金のアップなどによる運営上の影響はありました。賃金アップについては、人材の確保と雇用の改善には必要とされる要件となります。施設として、対応できる運営が求められ処遇改善金の取得の継続および加算の取得といたしました。しかしながら食費につきましては令和7年4月より値上げを行わざるを得ない状況になり、ご利用者・ご家族様にご負担をかける結果となりましたことを報告させていただきます。

運営に関して令和6年度は、入居率の低下から稼働率が95%を切る状況であったこと、年末年始にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスター発生があるなど、稼働率に影響を与える要因があり、残念な結果となりましたが、優先対策として入居までの体制と入居申し込み者把握見直しが急務となります。この点は相談部門と密な連携を指示しております。また、残業が増加により職員の負担がますます改善されておられません。環境改善委員会を設置し、見守り機器の導入や職員の負担や残業の軽減などの課題に対して、何ら方策を打ち出せなかったことについては反省すべきものとなります。令和7年度は職員の給与を上げ、負担のない職場環境の構築するために、採用と育成の方針を定め、さらに環境改善委員会が昨日できる体制にいたします。

また、令和6年度計画では満足のいく結果を出すことができず、反省点は各セクションからの報告とさせていただきます。令和7年度は職員一丸となって対応してまいります。課題として、施設長以下の幹部職員の意識を改革し、入居率の向上、無駄のない運営と職員の環境の改善を行い、よりよい介護ケアの提供を旨といたします。

施設を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、人材の確保のための環境づくりとして、研修制度の見直し、幹部職員の教育、年間を通じた育成体制などの改善と新たな経営人材の育成も同時課題とさせていただきます。相模翔優会は1法人1施設の小規模法人の運営であります。事業報告書でもわかるように、ユニット単位の目標設定と執行状況がわかる報告書となっております。小規模法人の強みである職員一致の連帯を重視した運営に徹するとともに報告書の課題を改善した報告を令和7年度にはお示しできるようにいたします。さらに今回の報告書は今後の中長期計画実行のための布石し、反省だけではなく、前に進むための報告書にいたします。

令和7年3月31日

特 別 養 護 老 人 ホ ー ム
ル ・ リ ア ン ふ か み
施 設 長 小 泉 昇

1 理事会・評議員会報告

(1) 理事会開催状況 理事 6 名 監事 2 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和 6 年 5 月 27 日	8 名	・ 令和 5 年度事業報告について ・ 令和 5 年度決算報告について ・ 監事監査報告及び財産目録について ・ 就業規則（定年）一部改訂について ・ キュービクル設備契約の追認について ・ 次回理事会及び評議員会の開催について ・ その他 運営状況等
2	令和 6 年 11 月 18 日	8 名	・ 神奈川県指導監査の結果について ・ 令和 6 年度補正予算（案）について ・ 契約期間満了に伴うパソコン新規契約について ・ 介護ロボット及び ICT 導入支援事業費補助金申請について ・ 次回理事会の開催について ・ その他 運営状況等
3	令和 7 年 3 月 24 日	8 名	・ 令和 7 年度事業計画（案）について ・ 令和 7 年度予算（案）について ・ 令和 7 年度 9 月更新予定借入金 ¥50,000,000.- について ・ 重要事項説明書の一部改訂について ・ 就業規則（育児・介護休業）改正について ・ 歯科ユニット機械修理について ・ 次回理事会及び評議員会開催について ・ その他 運営状況等

(2) 評議員会開催状況 評議員 7 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和 6 年 6 月 12 日	7 名	・ 令和 5 年度事業報告書について ・ 令和 5 年度決算報告について ・ 監事監査報告及び財産目録について ・ その他 運営状況等

2 特別養護老人ホーム

(1) 利用者の状況とサービスの提供

ア 要介護度別

令和7年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計(人)
男性	0	0	7	6	5	18
女性	0	0	24	26	14	64
計	0	0	31	32	19	82

イ 要介護度別月末延人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	32	33	32	30	30	31	31	32	33	31	30	32
要介護4	33	33	32	36	37	36	34	33	33	33	34	31
要介護5	20	21	20	19	19	20	21	23	22	19	19	19
計	85	87	84	85	86	87	86	88	88	83	83	82

ウ 年齢別 ※平均年齢84.9歳 最高年齢100歳

令和7年3月31日現在

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計(人)
男性	0	0	4	1	5	6	2	18
女性	1	2	2	8	7	27	17	64
計	1	2	6	9	12	33	19	82

エ 入所前状況

令和7年3月31日現在

入居前状況等	男性	女性	計(人)
在宅	13	42	55
グループホーム	1	3	4
小規模多機能型居宅介護	0	0	0
有料老人ホーム(住宅型・介護付)	2	7	9
サービス付き高齢者住宅	0	0	0
介護老人保健施設	2	8	10
医療機関	0	4	4
計	18	64	82

オ 要介護度別新規入所者数

	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	男性	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	6

	女性	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	4
要介護 4	男性	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	5
	女性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
要介護 5	男性	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	女性	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
合計		2	2	0	3	2	2	1	3	1	1	1	4	22

カ 入所者の認知症高齢者・障害高齢者日常生活自立度

【認知症高齢者日常生活自立度】

令和 7 年 3 月 31 日現在

ランク	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M
男性	0	3	0	8	1	2	3	1
女性	2	2	5	15	12	3	18	7
合計	2	5	5	23	13	5	21	8

【障害高齢者日常生活自立度】

令和 7 年 3 月 31 日現在

ランク	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
男性	0	0	0	4	5	2	4	2	1
女性	0	0	0	5	16	15	15	8	5
合計	0	0	0	9	21	17	19	10	6

キ 退所理由

	逝去（看取り）	逝去（入院先）	長期入院	他施設入居	その他（急逝）	計
男性	2	3	0	2	2	9
女性	8	5	0	0	0	13
合計	10	8	0	2	2	22

ク 面会状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
人数	133	138	147	150	124	133	149	137	122	0	135	136	1,504

※令和 7 年 1 月新型コロナウイルス感染症拡大の為面会受入なし。年間 1,504 人（月平均 125.3 人）

(2) 介護主任 総括

採用状況におきましては、ハローワークや介護労働安定センター、職員からの紹介により新入職者を迎えることができました。費用面で負担の大きい紹介会社を利用している採用は、最小限にとどめ、求職者と直接対応のとれる求人サイトを活用することで、費用を少なく求人活動を進めてまいりました。派遣職員“0”を維持することは継続できております。直接雇用を進めることで、仕事への責任を感じる職員の採用につながっていると実感しております。今後も安定した施設運営を行うべく、法人への適性を見極めた採用に力を入れて参ります。

また、職員定着・安定のために教育プログラムの構築を目指し、教育・研修チームを設置しましたが、指導方法など指針を示すことが出来ず、稼働には至っておりません。様々なご利用者を受け入れられるよう介護職員が喀痰吸引を実施できる施設を目指し、ユニットリーダーや教育・研修にあたる介護職員の喀痰吸引等基本研修、基本免除研修への参加を進めております。無資格者の認知症基礎研修への参加を促し、認知症への理解を深めています。指導者、リーダー層への管理者としての研修などへの参加が進まず、管理者層の研修、教育などの取り組みが進んでおりません。内部研修は、計画的な研修を進め

ておりますが、次年度は、一人ひとりの習熟度の確認に重点を置いてまいります。上記で示した通り、紹介会社を通さず、雇用が進んでいる現状を踏まえて、教育・研修プログラムの構築は急務です。当施設が、初めての職場となっている職員も増えてきているため、社会人としてのルールをはじめ、教育体制と精神的な支援を継続的に行ってまいります。

ICT(情報通信技術)導入の一環として、ナースコールと介護ソフトの連動により、事故の発生時間を正確に知ることにより、ご利用者の訴え、生活リズムの把握に努めることができています。また、『眠りスキャン』の導入により、看取りのご利用者の状態を多職種で共有することが可能となり、速やかな対応、介護職員の精神的負担の軽減化、業務の効率化につながっています。今後も ICT 機器の活用によりご利用者の個々の対応を迅速に行い、個別性を重視した介護をすすめてまいります。また職員の負担軽減にも役立て、職員の安定した定着、新たな人材育成に力を入れ、当法人へ貢献していただけるよう努めてまいります。

感染症対策においては、8月から9月、12月から1月にかけて、新型コロナウイルス感染症が発生し、ご利用者への感染が広がってしまいました。夏にご家族との面会方法を予約制でありながらも居室での面会へと制限を緩和する方策をとったものの、感染症拡大防止のため、ご利用者にご家族に面会等ご遠慮いただくなど大変申し訳ございませんでした。看取りとなられたご利用者及びご家族の皆様には、最期の時間を共に過ごせるようご配慮させていただきました。今後も感染症が蔓延することないよう職員の自己管理の徹底と感染症対策の見直しを行い、今後に備えた対応の取り組みをしてまいります。

歯科衛生士による口腔ケア指導に加え、令和6年度より、歯科衛生士と管理栄養士によるユニット巡回口腔ケア指導の取り組みをはじめております。介護職員と連携により、口腔ケアへの意識を高め、ご利用者の“食の楽しみ”を大切にしております。

(3) 各ユニット報告

<1 階青緑茜ユニット>

介護度	要介護 3…10 名	要介護 4…11 名	要介護 5…8 名
移動手段	歩行…3 名	自操車椅子…18 名	介助用車椅子…8 名
食事	見守り…15 名	一部介助…10 名	全介助…4 名
見守り機器使用度	眠りスキャン…5 名 その他センサー…6 名		
令和 6 年度目標	ご利用者、ご家族と密接な関係を築き、職員一人ひとりが責任感を持って行動し適切なケアを提供してまいります。		
取り組み評価	・ ICT 機器を活用することで、ご利用者の状態を把握しやすくなり、業務の質の向上に繋げることができました。 ・ ご利用者と庭園散策をして四季折々の草花を鑑賞していただく等の癒しの機会を提供できました。		
反省点	・ ご利用者の個性や要望を考慮したレクリエーションの実施が十分できませんでした。また、レクリエーションの実施において職員間で取り組みに差が出てしまいました。 ・ 情報伝達が確実に行われていないことがあり、統一したケアの実施に支障が出てしまいました。		
次年度課題	・ 日々変化する利用者の状態を把握、共有するために適宜カンファレンスを実施します。		

	・ご利用者の要望を盛り込んだ季節ごとのイベント企画を実施するほか、日々の生活を楽しめるようにレクリエーション等も併せて実施します。 ・確実な情報の伝達を心がけます。
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<2 階青紫ユニット>

介護度	要介護 3…6 名 要介護 4 …7 名 要介護 5…3 名
移動手段	歩行 …2 名 自操車椅子…12 名 介助用車椅子…2 名
食事	見守り …12 名 一部介助…3 名 全介助…1 名
見守り機器使用度	眠りスキャン…3 名 その他センサー…6 名
令和 6 年度目標	ご利用者、ご家族の気持ちに寄り添うと共に交流を通じて信頼関係を構築し、双方のご意向を尊重したケアの実施に努めます。
取り組み評価	・ 日常的な声掛けや表情の変化に向けた関わりを意識し、ご利用者一人ひとりに寄り添う姿勢を大切にし、安心して過ごせる環境を整え、ご利用者との信頼関係の構築につながりました。 ・ ご利用者のニーズや生活歴に配慮し、「その人らしさ」を尊重した個別ケアの提供に努めました。特に、日課や好みに合わせた対応を行うことで、生活意欲の向上が見られました。 ・ ICT 機器の導入により、ご利用者の状態把握がより詳細にでき、ご利用者の睡眠状況に合わせたケア実施や体調変化等に応じたケアの改善及びケアの質の向上が図れました。 ・ ご利用者と職員数名で近隣の農園へお連れし、いちご狩りを行いました。外出を通じて、普段の日常生活とは違った表情を垣間見ることができました。
反省点	・ ご利用者より、レクリエーション活動に関して様々な要望がありました。ただし、全ての要望に沿った企画及び開催することができませんでした。 ・ 職員間で ICT 機器の操作や確認方法に不慣れな様子が見られ、使用状況に差が生じていた為、ICT 機器の使用方法及び研修内容の振り返りの場を定期的に設け、統一されたケアの提供及び更なるケアの発展に繋げて参ります。 ・ 紫ユニットにて朝食薬 10 名分が紛失するという重大な事故が発生しました。薬剤管理における基本的なルール of 徹底や危機管理が十分でなかったことが明らかとなり、今後は職員一人ひとりが安全な管理の徹底に努めます。
次年度課題	・ 四季を取り入れたレクリエーション活動に加え、日々の生活の中で楽しめるカラオケや外出イベントの企画等ご利用者の声を反映したレクリエーションの充実に努めます。 ・ 多職種連携のもと、ご利用者の心身状態の把握と情報共有を適切に行い、ご利用者及びご家族が安心・安全と感じて頂ける様、居室担当者よりレクリエーション活動等の写真を添えてご家族に対して日々の様子や体調等の情報発信に努めます。 ・ 薬剤管理における安全性を確保するため、改めて職員の薬に対する意識付けや薬に関するルールの周知・徹底を行い再発防止に努めます。
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・いちご狩り・お花見

<2 階緑茜ユニット>

介護度	要介護 3…8 名	要介護 4…8 名	要介護 5…1 名
移動手段	歩行…6 名	自操車椅子…6 名	介助用車椅子…5 名
食事	見守り…10 名	一部介助…3 名	全介助…4 名
見守り機器使用度	眠りスキャン…4 名 その他センサー…5 名		
令和 6 年度目標	ご利用者が毎日を安心して過ごせるよう、記録の管理、効果的なコミュニケーション、状態の正確な把握を含む適切な支援を行える環境を提供致します。		
取り組み評価	・ 外出レクリエーションを実施し、施設外での体験を通じてご利用者の気分転換やリフレッシュを図るとともに、職員との関わりや他利用者との交流の機会を増やすことができました。また、外出準備や移動時の対応を通じてご利用者一人ひとりの状態やニーズに応じた関わりを深めることができた点も含め、有意義な取り組みとなったと感じます。 ・ ICT 機器の活用を通じて、ご利用者の変化を的確に捉え、記録や多職種との連携がより効果的に行えるようになり支援の質の向上に繋がっています。		
反省点	レクリエーションについては一定の成果が見られたものの、企画内容のバリエーションやご利用者により楽しんでいただけるように改善してまいります。今後は、季節感や個々の嗜好に応じた内容の検討を進め、より満足度の高い活動を目指してまいります。		
次年度課題	・ これまでの取り組みを踏まえ、ご利用者の声を反映したレクリエーション活動を企画、実施してまいります。 ・ ICT 機器の活用をさらに推進し、ご利用者の変化を常に的確に捉えられるよう努めます。また、記録や情報共有の精度向上を図り、業務全体の質の向上に繋がります。		
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・いちご狩り・クイズ大会・お花見		

<3 階青紫ユニット>

介護度	要介護 3…8 名	要介護 4…5 名	要介護 5…6 名
移動手段	歩行…6 名	自操車椅子…3 名	介助用車椅子…10 名
食事	見守り…7 名	一部介助…4 名	全介助…8 名
見守り機器使用度	眠りスキャン…3 名 その他センサー…9 名		
令和 6 年度目標	ご利用者やご家族、職員とのコミュニケーションを深め、個別ケアの向上に繋げ活気ある毎日を過ごして頂けるよう目指します。		
取り組み評価	・ ICT 機器の導入により、体調変化や生活リズムを読み取る事ができ、職員間での情報共有がスムーズに行えるようになりました。その結果、変化への気づきが早まり、多職種による協力のもと個別の対応に取り組めました。 ・ 秋祭りでは職員も積極的に参加することで、ご利用者とご家族等がふれあう機会を設けることができました。		
反省点	・ 季節感を意識したレクリエーションは実施出来ましたが、個性のある内容については十分ではなかったと感じています。 ・ カンファレンスの開催頻度や参加職員に偏りがあり、情報共有の方法を検討い		

	たします。
次年度課題	・ 個別ケアの均一化を図るため、カンファレンスの習慣化と申し送りの強化、改善に努め、継続的な業務改善を進めます。 ・ レクリエーションを1年通して充実した内容にしていく為、地域資源の活用や情報収集を積極的に行い、全職員で質の底上げを図ります。 ・ 職員からご利用者、ご家族とより深い関わりを持てるように意識を高めるとともに、これまで以上に居室担当者の役割を果たせるよう努めます。
行事	お誕生日会・クリスマス会・節分・お花見・お茶会

(4) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

<3 階緑茜ユニット>

令和6年度目標	・ ご利用者の身体的状態・精神的状態等を把握し、適切なサービスを提供する事でご自宅と同様の生活が継続できるように支援します。 ・ ご利用者、ご家族が今後も信頼、安心して利用できるようにサービスの提供に努めます。 ・ 緊急受け入れに対して、多職種と速やかに協議し連携を図り、受け入れ対応に努めます。
取り組み評価	・ 緊急利用者、新規利用者は多職種連携を図り、受け入れを行いました。 ・ レクリエーションによる体操や庭園散歩等を取り組みました。
反省点	・ 庭園散歩など、出かける利用者がいつも決まってしまう、十分に取り組みませんでした。 ・ ご利用者に対しての声掛け、接遇等の対応で職員の差が出てしまい、統一できませんでした。
次年度課題	・ 緊急利用者、新規利用者の受け入れを多職種と協議し連携を図り、速やかに受け入れ態勢が出来るように努めます。 ・ 接遇やマナーに力を入れ、統一したケアができるように努めます。
行事	秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

年間延利用日数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	6	4	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	21
要介護1	男性	0	0	14	2	5	4	3	0	0	2	8	2	40
	女性	29	15	17	31	41	18	24	36	28	15	21	16	291
要介護2	男性	74	35	16	26	21	20	20	21	24	16	20	3	296
	女性	43	48	39	57	57	75	54	49	57	59	67	95	700
要介護3	男性	48	46	52	70	68	55	26	29	55	48	59	94	650
	女性	92	95	98	108	116	145	134	118	117	87	122	100	1,332

要介護 4	男性	31	72	66	93	19	25	38	46	70	70	26	25	581
	女性	56	54	53	52	64	67	56	70	65	47	38	33	655
要介護 5	男性	19	32	48	45	73	39	44	42	42	43	38	29	494
	女性	105	99	91	91	93	94	96	93	107	98	85	94	1,146
小計	男性	172	185	196	236	186	143	131	138	191	179	151	153	2,061
	女性	331	315	298	339	371	399	364	377	374	306	333	338	4,145
合計		203	500	494	575	557	542	495	515	565	485	484	491	6,206

新規ご利用者数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
人数	5	5	3	7	5	6	5	8	3	3	2	4	56

(5) 利用者の健康状況

月別入院者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男性	1	0	3	1	1	1	2	1	2	2	1	0	15
女性	1	0	0	1	1	0	3	2	2	4	2	1	17
計	2	0	3	2	2	1	5	3	4	6	3	1	32

入院状況

No.	性別	入院月日	症状・病名	入院日数	再入所日	備 考
1	男	4 月 20 日	小脳出血	18 日	5 月 7 日	
2	女	4 月 30 日	誤嚥性肺炎	32 日	5 月 31 日	入院中ご逝去
3	男	6 月 17 日	脳出血		8 月 10 日	転院のためご退去
4	男	6 月 25 日	蜂窩織炎	11 日	7 月 5 日	
5	男	6 月 25 日	鼻出血	2 日	6 月 26 日	
6	男	7 月 22 日	基底細胞癌(耳)手術	6 日	7 月 27 日	
7	女	7 月 26 日	誤嚥性肺炎	12 日	8 月 6 日	
8	男	8 月 25 日	肺炎・胸水	9 日	9 月 2 日	入院中ご逝去
9	女	8 月 30 日	白内障手術	2 日	8 月 31 日	
10	女	9 月 6 日	心不全・間質性肺炎	9 日	9 月 14 日	入院中ご逝去
11	女	10 月 4 日	肺炎	3 日	10 月 6 日	入院中ご逝去
12	男	10 月 7 日	肺炎	4 日	10 月 11 日	
13	男	10 月 7 日	肺炎・腎盂腎炎		11 月 15 日	入院のままご退去
14	女	10 月 7 日	蜂窩織炎	12 日	10 月 18 日	
15	女	10 月 8 日	誤嚥性肺炎	39 日	11 月 15 日	
16	女	11 月 25 日	脳梗塞	10 日	12 月 4 日	
17	女	11 月 27 日	肺炎		12 月 17 日	入院のままご退去
18	男	11 月 28 日	前立腺癌精査入院	3 日	11 月 30 日	

19	女	12月18日	恥骨・座骨骨折	42日	12月28日	
20	男	12月25日	新型コロナウイルス SP02 低下ー肺炎	16日	1月9日	入院中ご逝去
21	男	12月31日	意識レベル低下		12月31日	搬送先にて死亡
22	女	12月31日	新型コロナウイルス SP02 低下ー肺炎	12日	1月11日	入院中ご逝去
23	男	1月1日	新型コロナウイルス SP02 低下ー肺炎	28日	1月27日	入院中ご逝去
24	女	1月3日	新型コロナウイルス SP02 低下ー肺炎			入院中
25	女	1月8日	肺炎	5日	1月12日	入院中ご逝去
26	男	1月9日	下血	13日	1月21日	
27	女	1月13日	食思不振		3月24日	入院のままご退去
28	女	1月30日	尿路感染症・腎機能低下	15日	2月13日	
29	女	2月25日	精神科薬コントロールの為			入院中
30	女	2月28日	食思不振	22日	3月21日	
31	男	2月28日	肺炎		3月2日	入院のままご退去
32	男	3月26日	呼吸停止			搬送先にて死亡

疾患別

No.	疾患系統	症状・病名	男性	女性	計（人）
1	悪性腫瘍	乳癌・大腸癌・前立腺癌・胃癌・肺癌・子宮癌・ 白血病・膀胱内腫瘍・大腿外側有棘細胞癌	7	2	9
2	精神・脳神経系	精神疾患	0	7	7
		認知症	10	39	49
		パーキンソン病	0	5	5
		もやもや病	0	1	1
3	消化器系	便秘	18	62	80
		胆のう・胆石	1	1	2
		膵胆管粘液腫瘍	0	0	0
4	腎臓系	腎不全	2	0	2
		尿路感染	1	6	7
5	心臓・血管系	心疾患・不整脈	4	18	22
		高血圧	12	37	49
		脳出血・脳梗塞	10	21	31
		腹部大動脈瘤	1	0	1
6	血液系	貧血	1	7	8
7	自己免疫系	関節リウマチ	0	2	2

8	骨・関節系	骨粗鬆症	2	10	12
		大腿骨骨折	2	18	20
		腰椎圧迫骨折	1	8	9
		上肢骨骨折	0	6	6
9	内分泌系	糖尿病	4	12	16
		高脂血症	3	14	17
10	感覚系	白内障	2	12	14
		緑内障	3	5	8
		皮膚疾患	0	2	2
11	呼吸器系	肺 MAC 症	0	1	1
		肺炎	0	4	4
		誤嚥性肺炎	0	3	3
12	泌尿器系	前立腺肥大	5	0	5
13	婦人科系	子宮筋腫	0	2	2

(6) サービスの質の向上

ア 相談担当

令和6年度目標	・ 近隣の施設での新型コロナウイルス感染症の発生状況を細かく情報収集し、介護及び看護等と連携し、施設内での発生予防に努めます。また、新型コロナウイルス感染症の発生による入院や利用キャンセル等の不測の事態が起こる可能性を見据え、即時対応を行います。 ・ 安定した事業運営のため、適切な収益確保や入退去の効率化に努めます。 ・ 相談員間で入居待機者の把握を行い、空床期間を短縮します。また、随時面談を実施するとともに、短期入所の利用をご提案します。 ・ 入居及び短期入所の目標稼働率を通年97%とします。 ・ 生活相談員に必要なソーシャルワークを学ぶため研修参加や資格取得を目指し、相談専門職としての質を高めます。 ・ 外部研修や勉強会等に積極的に参加し相談専門職のスキル向上に努めます。 ・ 入居申込者確保のため、高齢者施設や医療機関等との関係を深めます。 ・ 毎月事務所会議を実施し、売上や入居進捗状況確認等を確認致します。
取り組み評価	【入居・短期入所共通】 今年度における入居及び短期入所の平均稼働率は86.8%となり、目標値の97%を大幅に下回る結果となりました。サービス別年間稼働率は、入居 88.7%、短期入所 84.8%となりました。 【入居】 ・ 入院 31 名（延べ 557 日）で、うち 30 名が内科的疾患による入院となり、入院者全体のほぼ全てを占める結果となりました。骨折等の外的要因の入院は 1 件となり、前年度と比較し 1 件減少しました。 ・ 22 名退去（看取り 10 名、入院先逝去 8 名、他施設入所 2 名、急逝 2 名）、22 名入居されています。

	・短期入所ご利用者のご家族や担当ケアマネジャー等からの入居に関する相談が多く寄せられ、ショートステイからの入居移行に努めました。 【短期入所】 ・今年度年間稼働率は 84.8%となりました。内訳として上半期（4～9 月）86.6%、下半期（10～令和 7 年 3 月）82.9%で推移しました。 ・新規ご利用者受け入れは 47 名で月平均 4.3 名お受け入れしました。新規利用相談及び緊急利用相談については、都度対応できるよう努めました。 ・市内外問わず、顔が見える関係性が構築できている居宅介護支援事業所にはこまめに連絡及び訪問を行い、新規利用相談等をして頂ける場を積極的に設ける事ができました。 ・ご利用後は、担当ケアマネジャーへ連絡し、細かい生活状況や利用時のご様子をお伝えする事で、単発利用で終わらせるのではなく、次回利用に繋げるための情報伝達を行いました。
反省点と要因	・相談員間の連携や情報共有等が不足しており、効率的な入居に繋げる事ができませんでした。退去後に新たな入居に至る期間に1 カ月以上時間を要す方も多くいたことから、稼働率及び収入が不安定な状況に至りました。 ・施設内にて令和 6 年 12 月 23 日～令和 7 年 1 月 20 日期间に掛けて、新型コロナウイルス感染症が流行し、職員及びご利用者の感染がありました。その期間は予約を頂いていたショートステイご利用者のキャンセルが相次ぎ、新規ご利用者の受け入れも困難となり、下半期稼働率低下を招きました。
次年度課題	・入居及び短期入所の目標稼働率を通年 97%とします。 ・安定した事業運営のため、適切な収益確保や入退去の効率化に努めます。 ・入居待機者把握を行い、計画的な入居移行により空床期間短縮に努めます。 ・生活相談員に必要な相談力向上やソーシャルワークを学ぶため、神奈川県や各団体が開催する研修参加や資格取得を目指し、相談専門職としての質を高めます。 ・入居申込者確保のため、高齢者施設や医療機関等との関係を深めます。 ・毎月事務所会議を実施し、売上や入居進捗状況確認・多職種連携を行います。 ・入居待機者リストの定期的な見直しを行います。
次年度の取り組み	【入居・短期入所共通】 ・介護及び看護と協力し、小さな体調変化に迅速に対応し、体調不良の重症化を未然に防ぎます。長期入院や退所による空床の減少に努めます。 ・毎日相談員間の打ち合わせにより、連携確保・情報共有に努めます。 【入居】 退去から入居までを遅滞することなく、入居希望者の対応を円滑に努めます。 ① 入居希望者の状況収集・情報共有 ・入居申込書を基に、申込者や担当ケアマネジャー、医療相談員等に連絡し、細かな情報収集を行います。随時申込者へ入居意思を確認し、待機者リストを整理します。 ・情報収集した内容を共有し、常時 30 名を候補者として挙げます。

	② 面談 優先順位の高い方や受け入れ可能の方は、相談員間で随時面談を行います。 ③ 入退所判定会議 ・面談結果を基に、各専門職との情報共有及び受け入れを確認します。 ・現入居者で体調が不安定な方（看取り契約済みの方も含む）や長期医療機関入院を避けられない方がいる状況でも、空床期間短縮のため判定会后、速やかに健康診断打診に努めます。 ④ 入居日相談 ・必要書類が整い次第、速やかに入居日を相談します。 ・健康診断書や診療情報提供書等は概ね3ヶ月有効とし、急な退所にもスムーズにご案内します。
	【短期入所】 ・生活状況を適切にアセスメントし、生活の連動性の理解に努めます。 ・居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、医療機関へ連絡いたします。 ・緊急利用相談の場合は、入院されているご利用者のご家族等へ確認を取り、空所利用を行います。 ・空き状況を電話やFAX等でお知らせし、新規ご利用者獲得に努めます。 ・短期入所のご利用者はもちろんのこと、そのご家族の状況、生活上の困り事を把握致します。また、介護負担軽減のご要望があれば、施設入居案内等をご家族や担当ケアマネジャーに提案します。

イ 機能訓練

令和6年度目標	ご利用者の身体機能を把握し、個人の生活に沿い個別機能訓練プログラムの立案・実施をする事で、日常生活動作の維持及び低下を最小限に留められるように努めます。
取り組み評価	【ご利用者】 個別機能訓練計画書の作成・見直し・評価・日常生活動作を意識した機能訓練の実施・環境整備（福祉用具選定・居室内環境整備等）を行う事で、ご利用者の身体機能の維持ができました。 【職員】 多職種との連携を図り、ご利用者の日常の情報や生活動作等の身体能力を共有し、体調の変化に対応をする事、また必要に応じて福祉用具の選定の見直し・職員への提言等を行いました。
反省点と要因	年度途中で着任したため、ご利用者の生活様式や身体能力の把握等に時間を要し、最適な訓練計画を作成することができませんでした。また機能訓練側から情報、意見等発信することが少なかったです。
次年度課題	・ご利用者に適した個別機能訓練計画書を速やかに作成します。 ・ご利用者の変化に対して、情報を精査、検討し対応します。
次年度の取り組み	・身体能力の把握・評価を行うと共に、ご利用者・ご家族のニーズを踏まえ、計画書に反映できるよう取り組みます。 ・多職種職員と連携を図り、ご利用者の生活の質の向上に努めます。

	・福祉用具等、生活環境において快適に過ごしていただけるように、日常生活動作を維持できる取り組みを行います。
--	---

ウ 食事・栄養担当

令和6年度目標	「食」を通して、ご利用者の生活の質の向上に貢献します。
取り組み評価	・全入居者に栄養ケアプランを作成し、計画に応じたお食事の提供やモニタリングを継続しています。 ・月1回開催している給食会議では、日常の食事やイベント食に対する意見を聞き、質の向上に活かすことができました。 ・医務との経口維持加算経口摂取支援及び歯科医師と多職種による経口摂取支援は、月1回の実施を継続しています。 ・令和7年1月29日に昭和大学歯学部弘中教授による摂食嚥下に関する回診及び講演会を実施し、ご利用者の食事形態や支援方法等のアドバイスを頂きました。今後活かしてまいります。 ・2か月に1回、偶数月にセレクト食を実施し、ご利用者に選ぶ楽しみを感じて頂きました。また、下半期からは奇数月にリクエスト食も実施し、継続しています。 ・イベント食については、一部感染症の拡大で実施できなかった行事がありましたが、おおむね予定通りに実施しました。
反省点と要因	年度内に担当者が入れ替えとなった際に引継ぎ期間がなく、その影響で上半期にリクエスト食が実施できておりませんでした。秋祭りの対応についても 手探りの部分が多く、食材の量や当日の手順の検討が不十分でした。
次年度課題	・業務やイベントをスムーズに進められるよう、手順や注意事項を明文化します。 ・お食事に対する意見を広く集め、それをもとに提供するお食事の質を向上させるため、他職種や厨房職員との連携を強化します。
次年度の取り組み	・毎月のイベント食や行事の告知と事後報告を徹底し、認知度を高めてまいります。また行事の内容や注意事項を手順書として明文化し、次回以降の開催に活かします。 ・給食会議など通してお食事に対する意見を聞き、厨房職員と協力して改善に努めます。

食事の状況

令和7年3月31日現在

主食		副食		療養食	
米飯	13	常食	11	減塩食	6
軟飯	13	一口大	15	貧血食	1
粥	47	刻み	30	脂質異常食	0
ミキサー粥	9	極刻み	16	エネルギー・コントロール食	1
パン	0	ミキサー	10	腎臓食	0
パン粥	0				
パン粥ミキサー	0				
計	82	計	82	計	8

経口維持加算 I 50 人

エ 介護支援専門員

令和6年度目標	現在のご利用者の心身状態に合わせた支援内容が盛り込まれた施設サービス計画書を作成致します。
取り組み評価	新規ご利用者の施設サービス計画書の期間設定を短くして（2ヶ月～3ヶ月）速やかに修正ができる様にしました。特に退院後は身体状態が変わってしまわれるご利用者が見受けられた為、支援内容の見直しと変更を行いました。
反省点と要因	面会が緩和され、定期的に面会にお越し頂けたご家族が多くいらしたので、直接聞き取りをする事は出来ましたが、ご利用者全員の施設サービス計画書に反映するまでには至りませんでした。ご家族が日中、就業されているケースが増えた事で連絡が取りづらくなっているのも要因として考えられます。
次年度課題	ご利用者の要望、希望を自ら訴えることが出来る方が減ってきている中ですが、出来る方については、ご自身の言葉で、できない方は介護職員からの聞き取りを目標とし、多職種からの意見も交えた施設サービス計画書を作成致します。
次年度の取り組み	・ 引続き活動方針を念頭に置き、施設内を回りたいと思います。ご利用者、多職種との関わりを大切にまいります。 ・ 長期目標、短期目標の見直しは入退院時や身体状態に変化が見受けられた時、看取り契約を新たに結ばれた時等、施設サービス計画書の変更が必要になった場合に支援内容の見直しを行います。

オ 口腔ケア指導

取り組み評価	・ 歯科往診時の第2・第4水曜日に歯科衛生士によるご利用者の口腔ケアの個別指導をユニット毎に2名ずつ行いました。 ・ 毎週水曜に歯科衛生士と管理栄養士による口腔ケア指導の巡回を行いました。 ・ 前年度に引き続き、毎食前に嚥下体操として吹き戻し笛の取り組みを行っています。吹けない方は、耳下腺のマッサージをしています。笛を吹く習慣はつきましたが各ユニットで取り組み方に違いがあるため、統一した関わりを行います。 ・ 昭和大学歯学部弘中教授による摂食嚥下に関する指導を受け、継続して誤嚥性肺炎の予防や適切な食事形態の提供および口腔ケア実施に努めます。
--------	--

3 委員会報告

(1) 安全衛生委員会

開催日	毎月第1月曜日
令和6年度目標	安全な職場の環境づくりの取り組みと職員の健康管理に努めます。
取り組み評価	・ 腰痛予防の為にラジオ体操は継続できています。 ・ 巡回パトロールを多職種で実施し、施設内の環境整備と換気に努めました。 ・ 定期的に産業医との職員面談はできています。

反省点と要因	・毎週日曜日の冷蔵庫内の清掃がきちんとできておりませんでした。チェック表の確認があいまいだったことが要因なので再確認を行います。 ・職員面談は毎月でしたが、精神面に課題のある職員面談はできませんでした。 ・新型コロナウイルス感染症発生クラスターの反省を実施し、今後の対策を検討しました。
次年度課題	・腰痛予防の取り組みとストレスのない職場づくりに努めます。 ・感染対策を感染症委員会と協力して行います。
次年度の取り組み	環境整備と働きやすい職場づくりに努めます。

(2) 感染症・褥瘡予防委員会

開催回数	研修：新型コロナウイルス感染症予防研修、食中毒研修、感染症研修、褥瘡研修 委員会：年4回（5月、8月、11月、2月）
令和6年度目標	・感染症に関わる研修を実施し、職員全体の技術・知識向上に努めます。 ・感染症対応を全ての職員が、統一された方法で実施できるよう努めます。 ・新型コロナウイルス感染症の集団発生の抑制を心掛けます。その為に発生時には、初動動作を速やかに行える様、平時より多職種と危機管理に努めます。 ・多職種連携し、褥瘡や皮膚トラブルが発生した際、速やかな対応に努めます。 ・多職種連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めます。 ・感染症対応を全ての職員が、統一された方法で実施できるよう努めます。
取り組み評価	・感染症予防研修を行い、新人職員を含む全職員に対して感染症に関する知識の向上だけでなく、感染症発生時や感染が疑われる場合の速やかな対応を行うことができました。 ・多職種を交えてカンファレンスを開催し、ご利用者の状態に合わせ除圧マットやクッションを選定し、褥瘡や皮膚トラブルの予防及び改善に繋がりました。
反省点と要因	・以前、施設内で集団感染が発生した際の振り返りが対策マニュアルへ十分に落とし込むことができておらず、年末年始にかけて感染対応の不手際やフロアによって異なる対応を行ってしまい、ご利用者及び職員含め、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に至ってしまいました。
次年度課題	・新型コロナウイルス感染症を含む感染症に関わる研修を実施し、マニュアルの周知・徹底に併せ職員全体の技術・知識向上を図り、統一された対応を行い感染症の発生及び感染拡大防止に努めます。 ・多職種連携し、褥瘡や皮膚トラブルが発生した際、速やかな対応に努めます。
次年度の取り組み	・全職員へ集団感染発生時の聞き取り調査を行い、全館での情報を精査し感染症対応マニュアルを改訂し、マニュアルに沿った感染症予防研修を定期的で開催し、全職員に対して改定された感染症対応マニュアルの周知・徹底、全館で統一された対応を行い、感染拡大防止に努めます。 ・感染対応中、感染症対応マニュアルによる対応が不十分であると判断された場合や不備が発見された場合には、感染症委員会や看護師を筆頭に速やかに多職

	種連携し、感染症対応マニュアルの改訂及び対応の改善、情報発信、情報共有に努めます。 ・褥瘡対策個別計画書を作成し、研修を実施します。
--	---

(3) 人権擁護委員会（兼身体拘束適正化委員会）

開催日	毎月第2火曜日 ※4月・7月・10月・1月は、身体拘束適正化委員会を兼ねて開催致しました。
令和6年度目標	【事故予防関連】 ・見守り機器の導入により、ご利用者の状態の変化を検証し、支援の方向性について多職種で協議します。ご利用者の負担の少ない介助方法を検討及び推進します。 ・服薬事故防止に重点を置き、服薬方法等の検討・再発防止に努めます。 ・事故予防関連の勉強会や研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学び、伝達致します。 【人権擁護関連】 ・ご利用者に尊厳ある支援・ケアに努めます。 ・職員の人権教育を周知・徹底します。 【苦情解決関連】 ・ご利用者及びご家族、関係団体からの意見や要望を適切に対応し、苦情へ発展しないよう努めます。 ・苦情解決関連の勉強会やシンポジウム、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。
取り組み評価	【事故予防関連】 ・勉強会や研修には委員を中心に積極的に参加をし、内容を伝達することができました。指名研修、グループ研修などを行うことで、苦手意識のある職員の声を聞きながら、確認しながら研修を行えました。 ・毎月の委員会で事故の事例検討を行ったことで、事故の要因、実践的な対応を考え業務に活かす事ができました。 ・令和6年12月下旬に、1つのユニットご利用者の朝食前後の処方薬が紛失してしまう事故が発生いたしました。人権擁護委員会として調査を行いました。処方薬の管理方法、各職員の処方薬に対する意識の不十分が起因するものと判断いたしました。 ・今年度の事故報告件数は、284件発生しました。内訳として、転倒及び転落が138件、内出血60件、落薬72件、その他14件（離設・誤食等）となります。その他の内訳として、施設敷地外への離設事故が1件あり、ケガが生じた事案が発生いたしました。離設の恐れがあるご利用者については、施設全体で情報共有しております。 【人権擁護関連】 ・高齢者虐待及び身体拘束防止研修、事故防止研修、人権研修、スピーチロク等の権利擁護に関する研修を行い、メンバー中心に積極的に参加致し

	ました。 ・ご利用者に対する声掛けや接遇など改善すべきことがまだありますが、研修を実施したことにより各職員の意識の改善を図ることが出来ました。 【苦情解決関連】 ・今年度苦情案件はありませんでしたが、年複数回開催予定だった、苦情解決第三者委員会は開催できませんでした。
反省点と要因	【事故予防関連】 ・服薬事故に関しては、飲み忘れ、誤薬を防ぐことは出来ました。但し、落薬は完全に防ぐことはできませんでした。服薬方法の検討、飲み込み確認の徹底がされなかったことが要因であると認識しています。その為、各職員へ知識の伝達、意識の共有を図ってまいります。処方薬の紛失については施設全体の重大事案と認識し、発生した当該ユニットだけでなく施設全体で再発防止に取り組みます。 ・転倒による骨折、原因不明の大きな内出血等の事故が発生してしまいました。未然防止策の検討、綿密なカンファレンスを行ってまいります。 【人権擁護関連】 日々の声掛けや接遇、スピーチロックにはまだ課題があります。自分本意ではなく、ご利用者やご家族の立場に立ち考えるという事を次年度も引き続き意識するように伝えてまいります。 【苦情解決関連】 今年度の苦情案件は0件でした。本来であれば、年複数回開催する予定だった苦情解決第三者委員会を開催できませんでした。ご利用者及びご家族等からの要望や意見については各委員へ伝え、適宜対応しました。次年度も引き続き、要望や意見に耳を傾け、適宜適切な対応に努めてまいります。
次年度課題	【事故予防関連】 ・服薬事故防止に重点に置き、服薬方法等の検討や再発防止等に努めます。 ・事故予防関連の勉強会やセミナー、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。 ・事故防止策とその後の経過と検証をし、再カンファレンスをする事で再発防止に努めます。 【人権擁護関連】 ・ご利用者に尊厳ある支援・ケア実施に努めます。 ・職員の人権教育を周知・徹底致します。 【苦情解決関連】 ・ご利用者及びご家族、関係団体等からの意見や要望を適切に対応し、苦情へ発展しないよう努めます。 ・苦情解決関連の勉強会、シンポジウム等の研修に参加し、事例や対応方法を学びます。
次年度の取り組み	【事故予防関連】 ・月1回委員会開催します。

	・年2回事故予防、高齢者虐待及び身体拘束防止研修を開催します。 ・事故予防及びリスクマネジメント・身体拘束関連の外部研修、勉強会の参加と内部伝達研修を開催します。 ・身体拘束適正化委員会を年4回開催します。(4月・7月・10月・1月) 【苦情解決関連】 ・月1回委員会開催します。 ・年2回苦情解決委員会を開催します。 ・苦情解決関連の外部研修、勉強会参加と内部伝達研修を開催します。 【人権擁護関連】 ・月1回委員会開催します。 ・年2回高齢者虐待及び身体拘束防止研修を開催します。 ・権利擁護関連の外部研修、勉強会参加と内部伝達研修を開催します。
--	---

(4) 総務委員会

開催日	毎月第2金曜日
-----	---------

ア 防災

令和6年度目標	・介護保険制度にて災害時における事業継続計画が盛り込まれ当施設においても過去の経験をもとに、風水害、地震等の災害においてもご利用者へのサービスを継続出来るように努めてまいります。 ・当施設の立地が一級河川に近いため、情報収集に努め、大雨や洪水、大雪等の注意喚起を職員へ図り、大災害発生リスクを軽減し、防災計画や事業継続計画の見直しを行い、全職員に対して周知いたします。 ・防災訓練(体験型)や防災研修(座学)の場を通じ、普段から各種の災害の恐さや災害時の行動と準備の大切さを職員へ伝達共有いたします。
取り組み評価	・大型台風や地震等も少なく、情報収集・伝達に注意して意識を高める事を中心に活動しました。 ・火災報知器の誤作動により、夜間の職員が中心となり、全館への声かけやご利用者の健康状態やけがの有無等の確認及びライフラインの確認を実施して上司へ速やかに報告する等、緊急時の行動及び連絡の発信を職員自らの判断で行う経験を積むことができました。 ・委員会構成員が事業継続計画への意識を高めていくことができました。
反省点と要因	・事業継続計画の職員への周知を徹底し、職員一人ひとりが何ができるか、何をすべきかを考えられる組織にしていく必要があります。 ・訓練の実施やマニュアル等の整備はしていますが、起きた事象を反省し、再確認していくことを徹底いたします。火災報知器の誤報対策や、非常時に備えての職員の意識が確実に育ってきています。勤務している職員が、より積極性をもって、事態に対応できるよう連絡体制を整備します。マニュアルの作成、見直しを図り、危機管理への意識を高めます。
次年度課題	・事業継続計画に基づき、災害ごとの見直しを行い、風水害、地震等の災害においてもご利用者へのサービスを継続出来るよう努めます。

	・当施設の立地が一級河川に近いため、情報収集に努め、大雨や洪水、大雪等の注意喚起を職員へ図り、大災害発生リスクを軽減し、防災計画や事業継続計画を見直し、全職員に対して周知いたします。 ・防災訓練（体験型）や防災研修（座学）の場を通じ、普段から各災害の恐ろしさや災害時の行動と準備の大切さを職員へ伝達共有いたします。
次年度の取り組み	・災害発生及び災害が予想される場合には、初期対応を速やかに準備し、管理者の指示の下に行動いたします。 ・感染対策に留意しながら、計画的な防災訓練の実施に努めます。 ・緊急時は、管理者及び管理職の指示の下、事業継続計画に基づき実施します。

イ 物品

令和6年度目標	・毎月末に棚卸し、年末と年度末は全ユニットの棚卸を行います。 ・市場の情報を収集し、衛生用品や消耗品が不足とならないように取り組んでまいります。同時に災害時に必要となる衛生用品や消耗品の備蓄も再確認し備えてまいります。 ・物価高騰に伴い、衛生用品や消耗品等の価格調査に取り組み、より良質なものを価格交渉し、継続的に仕入れられるよう努めます。 ・適切な使用方法の指導を行い、無駄遣いとならないよう大切に保管・節約しつつ使用します。 ・電気や水道、ガスについては節約する意識を強く持ち、点検・巡回を行い、使用方法の見直し等徹底してまいります。
取り組み評価	・物価の高騰を踏まえて、あらゆる物品の適正な利用方法を検討してまいりましたが、有効な対策までは行き届きませんでした。 ・感染症対策を継続し、衛生関連品の確保が適正に行いました。感染対応となっても、物品を追加補充するなど、安定供給することができました。
反省点と要因	委員会として、具体的な取り組みを打ち出すことができず、効果的な節約には至りませんでした。次年度からは、手順書等を準備し、全職員が共通意識をもって対応に当たります。
次年度課題	毎月末に棚卸しを確実に実施し、適正数量を把握し、消耗品等の不足品が生じないように管理すると共に、保管場所の衛生保全に努めます。
次年度の取り組み	・毎月末に棚卸し、年末と年度末は全ユニットの棚卸を行います。 ・市場の情報を収集し、衛生用品や消耗品が不足とならないように取り組んでまいります。同時に災害時に必要となる衛生用品や消耗品の備蓄も再確認します。 ・物価高騰に伴い、衛生用品や消耗品等の価格調査に取り組み、より良質なものを価格交渉し、継続的に仕入れられるよう努めます。 ・適切な使用方法の指導を行い、無駄遣いとならないよう大切に保管・節約しつつ使用します。 ・電気や水道、ガスについても節約する意識を強く持ち、点検・巡回を行い、使用方法の見直しなど徹底します。

(5) 行事企画担当

令和6年度目標	職員全員が行事担当を担い、ご利用者に季節感を感じて頂けるよう努めます。
取り組み評価	・4年振りにご家族や近隣の皆様、関係各所をお招きした後援会主催による「バザー・秋祭り」は盛り上がりを見せ、ご利用者の喜んだ表情を見ることができました。 ・居酒屋等、他フロアのご利用者の交流を持てるイベントを再開することができました。次年度以降は、より多くの企画を行ってまいります。
反省点と要因	・多職種と連携をとり、感染拡大に注意しながら、ユニットごとの企画が行えたことは次年度以降も活かします。 ・感染症予防の意識を高く持つことにより、施設全体の行事だけではなく、ご利用者のご要望にあわせた企画等個別性を重視した企画を検討します。
次年度課題	・年間行事を計画し、ご利用者に四季を感じていただける行事を企画します。 ・様々な感染症対策と社会情勢を踏まえ、状況に合わせた対応に努めます。
次年度の取り組み	職員全員が行事担当を担い、ご利用者に季節感を感じて頂けるよう努めます。

行事実施状況

5月5日～8日	菖蒲湯
5月24日	居酒屋
7月7日	七夕
9月16日	敬老の日
10月27日	秋祭り・バザー
11月15日	お寿司バイキング
12月20日～23日	ゆず湯
12月27日	お餅つき(感染対応中につき中止)
1月1日～3日	新年挨拶(お屠蘇)(感染対応中につき中止)
2月3日	節分
3月3日	ひな祭り

令和6年度研修実績

令和6年度目標	【教育担当】 ・新入職の職員は経験・未経験問わず、研修及び定期的な評価を行い、個の能力を高めるとともに、基礎力のスキルアップを目指します。 ・各々の職員能力等を加味し、それぞれの階層別にあった研修を行い、自身の不得手なものをなくし、次の目標を示し、スキルアップを目指します。 【研修担当】 ・専門的に外部の研修に参加する選抜チーム(介護技術、接遇・マナー、知識・認知症等)を作り、部門に特化し、内部研修を行い、職員のスキルアップを図ります。 ・階層別研修として、外部研修・内部研修を計画し、職員に必要な知識・技術の伝達を行います。「介護技術」「認知症の知識」「接遇・マナー」に重点を置き、勉強会を定期的に行い、職員の知識・技術の向上を図ります。 ・リスクマネジメント研修及び感染症予防研修を継続・実施致します。
---------	--

	・動画配信研修やレポート研修等を導入し、学びの機会を提供します。
取り組み評価	【教育担当】 ・新入職の職員は経験・未経験問わず、研修を行うことができませんでした。しかし、定期的な評価を行うことには至らず、振り返り研修等計画的に行えず、不十分なものとなってしまいました。 ・基礎的な技術などは、多職種との連携等により、必要な職員へ働きかけ、個の能力を伸ばし、基礎力のスキルアップを行えました。 ・職員の能力等を加味し、階層別にそれぞれにあった研修が行われず、職員のスキルアップや意識覚醒には不十分なものになってしまいました。 【研修担当】 ・外部研修については、上半期は積極的に職員に参加を促すことができました。下半期については、各研修期間の研修予定など把握できず、参加の機会を逃すこととなってしまい、職員へのスキルアップの機会を提供することができませんでした。 ・伝達研修が行われず、職員に伝えることができませんでした。そのため、他の職員の学ぶ機会を作り出すことができませんでした。
反省点と要因	・新人研修、内部研修は多職種連携のもと、実行することができましたが、各フロア内での伝達研修の機会を設けられず、広く職員への知識の共有を図る必要性があります。 ・年間の研修予定の把握が出来ておらず、研修計画が不十分なものでした。 ・喀痰吸引等基本研修免除研修への参加を予定していましたが、基本的なガイドラインを理解できず、参加の機会を逃してしまいました。

【内部研修】

研修種別	内容	人数
新人職員研修 令和6年4月1日～5日 講師：小泉施設長、各主任	施設の規定をはじめ、各主任、専門職より	1名
眠りスキャン研修 令和6年4月18日 講師：山本主任	パラマウントベッド担当者より、基本的な操作・見方の検証	13名
眠りスキャン研修 令和6年4月22日・23日 講師：池上ユニットリーダー	4月18日の『眠りスキャン研修』のフロア伝達	5名
眠りスキャン研修 令和6年4月24日・25日 講師：古橋ユニットリーダー	4月18日の『眠りスキャン研修』のフロア伝達	5名
インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症研修 令和6年4月25日 講師：我妻介護職員（感染症・褥瘡予防委員会）	新型コロナウイルス感染症の基礎知識	18名

食中毒研修 令和 6 年 5 月 16 日 講師：吉岡管理栄養士 感染症・褥瘡予防委員会	・ 花王プロフェッショナル業務改善ナビ ・ 『食事ケア時の感染対策』動画視聴 ・ 食中毒の特徴と予防の必要性 ・ 食中毒対策で大切なポイント ・ 食事介助時の注意点	12 名
看取り研修 令和 6 年 5 月 30 日 講師：塩谷看護師	・ 看取りとは。 ・ “人の最期に関わる” ということ	8 名
高齢者虐待・身体拘束防止研修 令和 6 年 6 月 13 日・20 日 講師：人見相談主任・土屋介護支援専門員 (人権擁護委員会)	・ 高齢者虐待・身体拘束防止等権利擁護 に関連する法令 ・ 身体拘束の背景・現状・取り組み ・ 高齢者虐待の要因等 ・ 自己点検シートの実施	27 名
防災訓練 令和 6 年 7 月 24 日 主催：総務委員会	・ 起震車体験 ・ 消火器使用訓練 ・ 土嚢運び込み訓練	40 名
事故予防研修 令和 6 年 7 月 27 日 講師：山本介護主任、大内看護師 人権擁護委員会	・ 事故の原因とは ・ 分析方法について ・ なぜなぜ分析	15 名
BCP 防災訓練 令和 6 年 8 月 9 日 主催：総務委員会	・ 水害対策時の 1 階ご利用者を 2 階及び 3 階への避難訓練 ・ 医務室の薬・カルテの移動	8 名
パワーハラスメント研修 令和 6 年 8 月 21 日 講師：桐生英美氏 (神奈川県働き方改革推進支援センター)	・ 会社がパワーハラスメント対策をする 理由 ・ 法律上のハラスメント ・ パワハラ of 段階行為や類型 ・ パワハラと指導 ・ 民主化に向けたコミュニケーション ・ アサーション ・ パワハラグレーゾーンチェック	26 名
「性的マイノリティとハラスメント」研修 令和 6 年 9 月 17 日 講師：桐生英美氏 (神奈川県働き方改革推進支援センター)	・ 性的マイノリティの説明 ・ 性の多様性とパワハラと向き合うため ・ 性の多様性と企業での対応について ・ 職場セクシャルハラスメントについて ・ セクハラ・マタハラ・パタハラを防ぐ ために ・ ハラスメントから切り離して考える ・ セクハラ認識度チェックテスト	26 名

「カスタマーハラスメント」研修 令和6年10月16日 講師：桐生英美氏 (神奈川県働き方改革推進支援センター)	・ カスタマーハラスメント対策について ・ カスタマーハラスメントに関する各企業の対策について ・ カスタマーハラスメントとは	26名
BCP 感染症対策研修 令和6年10月17日 講師：古橋ユニットリーダー	・ BCP の定義と必要性 ・ 新型コロナウイルス感染症発生時の対応フローチャート ・ ユニット内感染症予防対策	19名
新人職員研修 令和7年1月6日～10日 講師：小泉施設長、各主任	施設の規定をはじめ、各主任、専門職より	3名
摂食嚥下回診・口腔ケア研修 令和7年1月29日 講師：昭和大学歯学部 弘中教授	・ 入居者12名の回診 ・ 講演会「食事介助を極める！」	40名
誤嚥・窒息による急変対応(指名研修) 令和7年2月13日 講師：草山看護師 人権擁護委員会(事故予防)	嚥下・誤嚥・窒息に関する基礎知識、症状その急変対応について	4名
褥瘡予防研修 令和7年2月20日 講師：佐々木看護師・佐藤機能訓練指導員 感染症・褥瘡予防委員会	褥瘡の概念、症状、なりやすい状況、初期症状などについて	10名
服薬研修(指名研修) 令和7年2月27日 講師：古橋ユニットリーダー 人権擁護委員会(事故予防)	服薬時の注意事項、薬の管理について	5名
高齢者虐待・身体拘束防止研修 令和7年3月6日・14日 講師：人見相談主任・土屋介護支援専門員 人権擁護委員会	・ 高齢者虐待・身体拘束防止等権利擁護に関連する法令 ・ 身体拘束の背景・現状・取り組み ・ 高齢者虐待の要因等	32名
夜間想定避難訓練 令和7年3月13日 総務委員会	夜勤者のみの時間帯での火災想定避難訓練	10名
BCP 防災机上訓練 令和7年3月21日 総務委員会	事業継続計画を読み合わせすることで施設のBCPを理解し、さらなる検討を行う。	8名

【外部研修】

研修種別	内容	参加者
喀痰吸引等研修 基本免除研修 令和6年7月8日～9日	鶴巻温泉病院にて喀痰吸引の実地研修	甘利

主催：神奈川県		
喀痰吸引等研修 基本研修 令和6年7月10日～10月6日 10日間 主催：神奈川県	喀痰吸引を行うにあたっての基本的な研修とその理解	土屋 古橋
全国社会福祉法人経営者大会 令和6年8月29日 主催：全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 神奈川県社会福祉協議会・経営者部会	基調報告「社会福祉法人をめぐる動向と全国経営協の取り組み」	小泉
認知症基礎研修 令和6年9月3日 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	無資格者のための認知症の基本研修	間宮 山下
神奈川県高齢施設協議会・施設長・管理者研修 令和6年10月6日 主催：神奈川県高齢者施設協議会	能登半島地震に関する報告・シンポジウム	小泉
生産性向上セミナー 令和6年11月22日 主催：県央東部4市施設部会	介護現座での生産性向上とは	小泉
潜在介護福祉士等の再就業促進事業研修 『認知症の理解』 令和7年1月17日、27日、2月5日、12日 主催：神奈川県高齢者福祉施設協議会	認知症の理解とご利用者への対応について	松橋 中村
東京ケアウィーク 2025 令和7年2月4日 主催：ブティックス（株）	・ 東京ビックサイトにて、2月3日から5日開催 ・ 介護業界および健康施術業界の企業が出展する展示会見学	神田 白木
喀痰吸引等研修 基本研修(実地研修) 令和7年2月26日～27日 主催：神奈川県	鶴巻温泉病院にて喀痰吸引の実地研修	土屋
介護支援専門員・管理栄養士の連携のためのパワーアップ講習会 令和7年3月4日 主催：神奈川県厚木保健福祉事務所	・ 南大和認定栄養ケアステーションにおける在宅療養者向けの栄養ケアについて ・ 栄養ケアの介入タイミングについて ・ お食事連絡票について	神田 白木
喀痰吸引等研修 基本研修(実地研修) 令和7年3月6日～7日 主催：神奈川県	鶴巻温泉病院にて喀痰吸引の実地研修	古橋
地域福祉セミナーやまと 2025 令和7年3月9日 主催：大和市社会福祉協議会	・ 認知症の本人が加わるチームオレンジについて ・ 外国人労働者への支援から生まれる	小泉

	地域支援	
地域から選ばれた自分たちが誇れる施設であるために 令和7年3月13日 主催：神奈川県社会福祉センター		小泉
認知症認知症対応力向上研修 令和7年3月13日 主催：神奈川県	・認知症基本的知識について ・地域における実践 ・社会資源について	塩谷 池上

イ ボランティア活動

令和6年度目標	感染症等の社会情勢を見極め、地域住民やボランティア受入を検討・連携をとり、可能な範囲でボランティアとご利用者との交流の場を設けます。
取り組み評価	感染症対策の中、積極的な働きかけはできませんでした。
反省点と要因	・昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症予防のため、社会情勢を鑑みながら対応致しました。 ・ご家族の面会などを規制している状況のもと、積極的な受け入れの体制を構築するには至りませんでした。
次年度課題	・感染症等の社会情勢を見極め、地域住民やボランティア受入を検討・連携をとり、積極的にボランティアとご利用者との交流の場を設けます。 ・令和7年度より大和市ボランティア連合会との連携を実施いたします。
ボランティア実績	感染症予防対策により、受け入れ実績はありません。

ウ 外部機関との関わり

取り組み	障害者自立支援センターと協議を始め、清掃などの提携を再開いたしました。感染症対策を踏まえつつ、外部機関との関わりとして、一年を通しては、積極的な活動は行えませんでした。 ・社会福祉士大和の会との連携の実施 ・神奈川県介護福祉士会との研修会への参加
------	---

4 職員関係

(1) 職種別配置構成*総務課 非常勤 管理職者、清掃を含む。

令和7年3月31日現在

区 分		常 勤	非 常 勤	計
施 設 長		1	0	1
総 務 課 (宿直・営繕も含む)		2	6	8
介 護 (清掃も含む)		36	32	68
医 務	看護師等	5	1	6
	嘱託医師 (内科)	0	2	2
	嘱託医師 (歯科)	0	1	1
	嘱託医師 (精神科)	0	1	1
栄 養	管理栄養士	2	0	2
相 談	介護支援専門員	1	0	1

	機能訓練指導員	1	0	1
	生活相談員	2	1	3

(2) 資格取得構成

令和7年3月31日現在

区 分	常 勤		非 常 勤	
	男性	女性	男性	女性
介護福祉士	19	5	10	5
初任者資格	1	1	0	5
実務者研修資格	4	0	0	0
医師及び歯科医師	0	0	3	1
看護師	0	4	0	1
准看護師	0	1	0	0
社会福祉士	1	0	0	0
社会福祉主事任用資格	0	0	0	0
介護支援専門員	3	0	1	2
管理栄養士	1	1	0	0
柔道整復師	1	0	0	0

(3) 実習・見学・講師派遣関係

<見学>

*以下の団体に職員を講師として派遣いたしました。

依頼団体	派遣月日	内容及び会場	派遣役職
大和市ボランティア連絡会	4月22日	総会基調講演	管理者
西部総合職業技術校	5月15日	施設説明会	管理者
神奈川県社会福祉協議会	5月23日	評価調査者認定研修講師	管理者
神奈川県社会福祉協議会	6月13日	評価調査者認定研修アセッサー	管理者
神奈川県社会福祉協議会	7月1日	評価調査者更新研修講師	管理者
神奈川県社会福祉協議会	7月10日	評価調査者認定研修講師	管理者
大和商業高等専修学校	12月17日	初任者資格（実践教育センター）	管理者

<地域連携>

関係機関	日程	内容	担当者
福祉の魅力を伝える プロジェクト	5月1日～ 3月31日	大和市社会福祉協議会	ユニットリ ーダー

大和市ボランティア連絡会	10 月 22 日	施設見学会	施設長・主任
車椅子体験教室	10 月 31 日	大和市社会福祉協議会（大和東小学校）	主任・ユニットリーダー
障がい者施設利用者相談	月 2 回	e ネットオンブズパーソン	施設長
神奈川県求職者支援訓練	4 月～3 月	柏木実業実践教育センター	施設長 主任
第三者評価推進機構	4 月～3 月	運営委員、養成研修委員	施設長
神奈川県高齢者施設協議会	4 月～3 月	防災委員	施設長
県社協施設協議会	4 月～3 月	防災委員	施設長

＜実習＞＊以下の機関の実習を受け入れました。

関係機関	日程	内容
学校法人柏木学園	6 月 25 日	介護職員初任者研修(施設介護) 6 名
学校法人柏木学園	6 月 27 日	介護職員初任者研修(施設介護) 7 名
学校法人柏木学園	9 月 25 日	介護職員初任者研修(施設介護) 6 名
公益財団法人 介護労働安定センター	11 月 13 日～ 11 月 19 日	実務者実習研修 2 名

以上